

ヨーロッパひとり旅。
あなたは、このピンチを
どう切り抜ける？

Part 4

ヒグチ サトシ



脱ツアー旅行！
個人旅行はスリス満点！

第四弾：恐るべし、イタリア

ヨーロッパ旅行中に突然遭遇したピンチと、
それを、どのように切り抜けたのかの実話

ヒグピー書房 定価 無料



恐るべし、イタリア ～ ベネチア旅行の思い出

1993年の夏の事だ。知人から水の都、ベネチアを旅行した時の話を聞き、私も夫婦で行く事にした。成田からミラノ国際空港に降り立つと、その夜はミラノ中央駅前のホテル・エクセシオール・ガリアに宿泊した。ここは5つ星の高級ホテルだが、夏のバカンス・シーズンには、人々は避暑地に行ってしまう大都市は、もぬけの殻となる。その為、市内の高級ホテルはこの時期、宿泊代をディスカウントしている所以我们たちでも泊れる値段になっている。

室内は広く、豪華な装飾が施されていて、バス・ルームは大理石、洗面台は2つ備わっている。これは使ってみるととても便利だった。かみさんを気にせず、自分のペースで朝仕度ができるのだ。

翌日は、中央駅でレンタカーを借り、「ロメオとジュリエット」で有名なベローナに行き、そのアリーナで催される野外オペラを見る予定だ。演目はベルディーの「アイーダ」である。

アリーナとは、古代ローマ時代の屋外闘技場だが、ベローナには、それが現在でも使用可能な形で残っているのだ。その日はベローナに宿泊し、次の日、ベネチアへ行く予定になっている。

翌日は朝から雷を伴った大雨だった。夕方の雷雨は理解できるが、何故、朝から雷雨なのだろう？それもよりによって旅の1日目から。旅行初日からこれでは思いやられる。

そうは言っても悪天候だからといって、ホテルにじっとしている訳にもいかない。旅のスケジュールは既に立てていて、いろんな予約をしてあるのだ。

私たちは早速、日本で事前に予約しておいた車を借りるためにレンタカー会社のオフィスに行った。私は日本ではオートマチック車を運転していて、もう久しくマニュアル車を運転した事が無い。ヨーロッパでは日本やアメリカとは違いマニュアルが主流なので、念のために事前にオートマチックを予約していた。

ところがオフィスに行くと予約は受けているがオートマチックの車は出払っていると言う。

「どういうこと!？」

やはり、イタリアだなあと感じてしまう。

駅前のレンタカー・オフィスなので、沢山の車をストックしておく敷地が無いのは理解できるが、事前に予約してもこのありさまだ。

別のレンタカー屋をチェックしてみたが、そこにもオートマチックは無かった。

「どこかにオートマチックがある店は無いのですか？」

聞いてみるとリナーテ空港にはあるという。リナーテ空港は、主にイタリア国内線や周辺ヨーロッパ諸国への短距離国際線が中心の空港だ。

空港なら広い敷地を持っているので、オートマチックも用意してあるのであろう。

しかたなく私たちはリナーテ空港までタクシーで行く事にした。

後で考えれば、そこまでしてレンタカーを借りずとも、ミラノ中央駅にいるのだから、そこから列車に乗ってベローナ経由でベネチアに行くと言う選択肢もあった。

ベネチアを観光した後は、再びミラノに戻る予定だが、その際は列車に乗る予定だったのだから。

しかし、その際はレンタカーを借りることしか頭に無かった。ちょっと頭が固かったかな？

でも車があれば、いろんな所を寄り道できるというメリットがあるのも事実。リナーテ空港で紺色のオペル・ベクトラを借りて、一路ベローナへと向かった。

途中、ガルダ湖に寄った。天気は相変わらずで灰色の雲が湖を覆っている。今夜の野外オペラは大丈夫か気になった。

レンタカーには新車が多い。

この紺色のオペル・ベクトラの走行距離も2200Km程度で、まだ新車の匂いがする。

この車で、私は初めてスリップというものを経験した。とても恐ろしい経験だった。

大雨のせいで路面も滑りやすかったのだろう。しかし新車ということでタイヤも「一皮剥けていない」状態だったのだ。

ある坂道を下っている時に、先の信号が赤になったのでブレーキを踏んだら、その途端、車は止まるのではなく、すーっと滑り出したのだ。

アンチロック・ブレーキ付きなら滑り出す事はなかったのかもしれないが、この車には付いていなかった。とっさの事で、ブレーキを踏み直すということも出来ず、滑ったまま交差点を過ぎてしまった。

最悪だと、車に衝突したり、道路からはみ出して崖下に転落したり、大きな事故になるところだが、幸いにも事故は発生しなかった。こんな経験は、後にも先にもこれ1回きりだ。

タイヤは、型にゴムを流し込む方法で作られるが、その型枠とゴムが剥がれやすくするために離型剤というもので表面がコーティングされているそうだ。新品のタイヤだと、これが残ったままになっていることがあり、スリップの原因になることがある。したがって、この意味でも「ならし運転」は必要かもしれない。

ベローナは中世の趣を残す街だ。町中の石畳の道は狭く、一方通行が多い。

まだカーナビが無い時代、地図でホテルの位置を確認したものの、一方通行のために、なかなかホテルにたどり着く事が出来ない。結局ベローナに着いてからホテル前に車を着けるのに1時間もかかってしまった。しかしホテルに駐車場があつてよかった。別の場所に止めなければいけないとしたら、また大変な事になったであろう。

オペラが始まるまで、まだかなりの時間があるので、「ジュリエットの像」を見に行く事にした。

ジュリエットの像全体がすすで黒くなっている中、右胸だけはピカピカである。胸をさわると恋が叶ったり、願い事が叶ったりすると言われていているからである。

「ロミオとジュリエット」の話からすると、ちょっと違和感のある話ではあるが。

ジュリエットの胸を触ったであろうロミオの恋は何故、報われなかったのであろうか？

夕方になり、アリーナの周りのレストランは野外オペラの観光客で賑わい始めた。

私達もレストランのテラス席で急いでピザを食べ、雨の中、開場になったアリーナに入って行った。

私達は自由席なので、良い席を確保するには早い時間に来る必要があつたが、アリーナに着いたのは結局開演の15分前だった。遅く来て2名分の席を探すのは大変かと思いきや、席を見つけるのに、さほどの苦労は無かつた。

雨のため開演は30分延びたが、上演開始後は雨も降らず、最後まで観る事が出来た。

しかし、夏なのに冷える夜であつた。

このベローナの夏の野外オペラはヨーロッパでは有名のようだが、当時、日本ではほとんど知られていなかったのではないだろうか？

インターネットもなく、日本から情報を入手する事も、チケットを入手する事も困難だったと思う。
私はどうしたかという、ベネチア行きを決めた後、何かで野外オペラの事を偶然知り、かみさんがミラノ駐在の会社の人にチケット購入をお願いしたのだった。

翌日は、一転、快晴となった。日脚も強くなり、気温も高くなった。
午前中はペローナを散策したあと、車でベネチアに向かった。
全長4Kmのリベルタ橋を渡りきるとベネチアの玄関口であるローマ広場である。
この広場までは車で来られるのだが、この先は水の都となり交通手段は水上バスだけとなる。

私は車を戻すためにローマ広場のレンタカー会社のオフィスに行ってみた。
ここで予期せぬことが発生した。なんとオフィスが閉まっているのだった。
今日は土曜日なのだが、オフィスのドアに書いてある文字からすると、どうも土曜日は午前中だけで、日曜日は完全に休みの様だ。
こんな観光名所のレンタカー屋に休みがあるなんて！？
やっぱり、ここはイタリアだ。のんびりしている。
オフィスが閉まっている場合には、横の立体駐車場に車を止めて、車のキー、契約書、駐車場のチケットを扉のポストに入れろ、と書いてある。
普通、車を戻す時は、車の傷やガソリン量をチェックし、双方の了解のもと清算するのだが、これだとレンタカー屋の確認結果を一方的に受け入れるしか無くなってしまう。
ちょっと不安だが、しかたない。

ここからの交通手段である水上バスの3日券を購入すると、早速ボートに乗り今日の宿へと向かった。もしかすると券を購入した時にカウンターで何か言われたかもしれないが、ボートの出発時間が迫っていたので、そちらに気が行っていた。これが後にトラブルの原因になるのだが、その際は知る由もなかった。
ベネチアは無数の島からなる街であるが、その中央を大運河と呼ばれる運河が流れていて、水上バスはこの運河を運航している。
これ以外に無数の小さな運河が迷路の様に巡らされており、ベネチアの観光で有名な「ゴンドラ」は、主にこれらの小さな運河を運行している。

ベネチアに滞在の4日間、サンマルコ教会やベネチアン・グラスで有名なムラーノ島を見学した。最初はどうかと思っていたが、結局ゴンドラにも乗った。
食事では、それまでイカスミを食べた事がなかったのだから、イカスミのスパゲティを食べ、スミもイカの味がすることに感激したりした。

ベネチアでの最終日、ミラノに列車で戻るべく、20Kg弱のスーツ・ケースと共に、サンマルコ広場から水上バスに乗りサンタ・ルチア駅に向かっていた。その時である。
いままで何度と無く乗船していた水上バスではあるが、今まで一度もチケットを見せろとは言われなかった。しかし、その水上バスの女性車掌に限ってチケットを見せろと言うのだ。
荷物が多い時に面倒くさいこと言うなと思いつつ、私は3日券をその車掌に見せた。すると女車掌は

「穴があいていない。このチケットはいつ買ったのか？」と言う。

そうか。使用する時は、その開始日時をチケットに刻む必要があったのか。水上バスに乗るたびに、どうも変だと思っていたのだが、そういうことだったのだ。

「土曜日に買いました」と女車掌に言うと、「今日は火曜日だから、チケットを買え」という。しかし、そのとき私たちは手持ちのイタリア・リラをほとんど使い切っており、持ち合わせが無かった。これから行くサンタ・ルチア駅で日本円をリラに両替するつもりだったのだ。

「お金がない」

と言うと、次で降りろと言う。

前日にチケットを購入していた列車の出発時間が迫っていたので私たちは慌てた。

私は、3日券は72時間有効とガイドブックに書いてあった事を思い出した。

「このチケットは、土曜の夕方を買って、まだ火曜の昼だから有効だ」

横で様子を見ていた女性も、なぜか私たちの味方となって、私の言う事に「そうだ、そうだ」と頷いている。すると女車掌は、またもや驚く事を言って来た。

「スーツ・ケース代の3300リラ払え」

一難去ってまた一難とは、まさにこの事だ。来る時には、こんなことは言われなかったが、本来なら支払う必要があるお金らしい。なのでこれには反論できなかった。

ほとんど持ち合わせが無い中、ポケットの中からお金をかき集めて、なんとか支払う事ができた。

3300リラは、当時のレートで230円ほど。大した金額ではないのだが、お恥ずかしい事に、その時は本当に、それすら持ち合わせがあるかどうか分からない状況だった。

そんな状況になるまで両替しないと、こんな冷や汗をかく羽目になる、という良い勉強をさせてもらうことになった。

それにしても、女車掌は厳格だ。それに比べ男性の車掌は..... まさにイタリア人？

この旅には、実は後日談がある。

レンタカーの支払いはクレジットカードを利用したのだが、3ヶ月経っても請求がカード会社から来ないのだ。

レンタカー代はそれなりの金額なので、支払わなくて済むならばラッキーな話である。

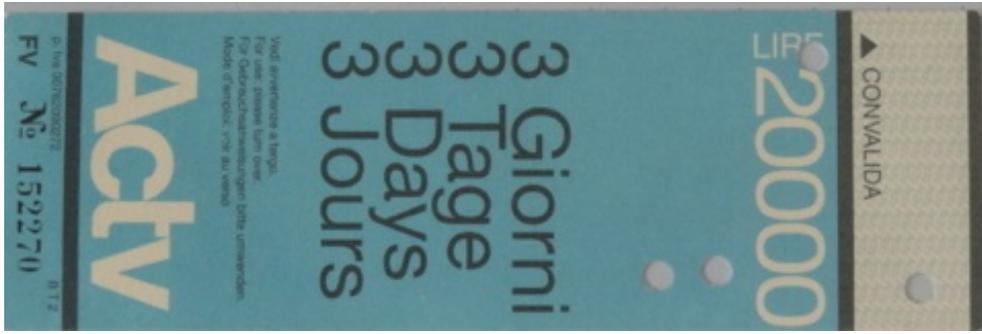
ところがである。忘れた頃に請求が来たのだ。

それどころか、その翌月にも同じ請求が来たのだ。いわゆる2重請求だ。クレジットカードを利用して以来、こんな経験は初めてだ。

カード会社に連絡し調査を依頼した。カード会社の調査の間、その代金に対する支払いは保留された。

数ヶ月後、会社から連絡があり、その支払い請求を無効とする旨の連絡があった。

どうやらカード会社は、その請求に関してレンタカー会社に照会したが、レンタカー会社からは回答がなかったそう。イタリア、恐るべし、である。



問題の水上バスのチケット



夏の風物詩 ～ ベローナの野外オペラ



渡し舟の船頭 ～ ヴェネチアの運河にて



ベネチアの街